



講演とワークショップ

「サウンド・エデュケーション」

例えば雨降りの午後、窓の外をポケットと眺めていると、しずくをめぐるさまざまな肌理が聞こえてきます。地上の水が蒸発して雲になり、雨が降る、といった自然界の現象は何も表現していないし説明もしていない、感じるのは人、ということになります。音楽、あるいは芸術とは、つまり、人が作ったもう一つの自然、とでもいうものなのでしょう。この、自然と人の身体との本来のマナーを、音、音楽という切り口を通じて感じてみませんか？

講師：今田匡彦（弘前大学教授）

日時：2009年9月2日（水） 時間：13：30～16：00

場所：青森県立美術館スタジオ

料金：無料 限定20名（事前の申込みが必要です）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

助成：財団法人地域創造



今田匡彦（いまだ ただひこ）
東京生まれ。国立音楽大学卒業。
東京神田のサウンドスケープ研究（トヨタ財団助成）、横浜博覧会音響計画（『大地のパイプオルガン』作曲）などに参加。1991年評論『パフォーマンスとしてのサウンドスケープ』で第7回名古屋文化振興賞佳作受賞。1992年カナダ政府招聘留学、1994年サイモン・フレーザー大学教育学部修士課程修了、1999年ブリティッシュ・コロンビア大学教育学部博士課程修了（哲学博士号取得）。英国ロンドンのローハンブトン大学博士研究員を経て、現在、弘前大学教育学部音楽教育講座教授、教育学部附属国際音楽センター副代表。専門は音楽教育学。ISME(国際音楽教育学会)マスメディア・ポリシー部門コミッショナー、2002年米国テネシー大学マーチン校客員特別教授。著書にR. マリー・シェーファーとの共著による『音さがしの本』（春秋社）、『音楽教育学研究Ⅰ』（共著、音楽之友社）、*Music Education Policy and Implementation*（共著、弘前大学出版会）、訳書に『サウンド・エデュケーション』（共訳、春秋社）、『音楽家のためのアレクサンダー・テクニーク入門』（春秋社）などがある。
記号論、サウンドスケープ論により音楽の肌理について思考する。昨年開催された青森県立美術館コンサート「12人のピアニストによるコンサート+α」に出演。

申込み・お問い合わせ
青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会「楽の音・日本の音」事務局
〒038-0021 青森市安田字近野 185 電話：017-783-5243 FAX:017-783-5244

参加希望の方は、下記に御記入の上、郵送・FAXにてお申し込み下さい。電話での申込みも受け付けています。

――― 講演・ワークショップ参加申込書 ―――

参加者氏名		2名以上での参加希望の場合	他	名
連絡先	電話番号	メールアドレス		